

ごろ幅員拡張が行われ、県道となった。

仁井田から本堂に至る道路は、大正元年、郡道東又線として計画、大正十四年（一九二五）郡制廃止とともに県道に移管された。

志和窪川間の路線は、明治三十六年ようやく開通した。大正十一年（一九二二）、郡道窪川―上ノ加江線とともに県道に移された。

仁井田から本堂に通ずる松葉川仁井田線は、大正八年川原越坂にトンネルを掘って郡道として開通したものを、郡制廃止とともに県道に移管された。

大正二年十一月、窪川から大野見村吉野に至る路線の整備が一〇年計画で進められ、昭和三年（一九二八）ようやく完成したが、ところどころの橋や屈曲部に不便な箇所があつて、今日のように自動車が行ける道ではなかった。そこで昭和三年に野老野橋、翌四年に大野見奈路橋などを架け替え、路線開通後一六年目に自動車が行ける道となり、窪川大野見間に自動車が行くようになった。

本堂より奥津に通じる路線は、大正十年（一九二二）起工し、奥津坂の険しい坂道があつて難工事を続け、数年後ようやく開通することができた。

窪川から北嶺大正町に至る路線及び佐賀町に至る路線については、その開通の年月はつまびらかでないが、明治三十年代ではないかと思う。こうした道路の改修は、産業に文化に経済の発展にと大きな役割を果たした。大正元年、仁井田村だけで物資運搬に使った貨車の数は七三台、大正五年には七七台もあつて、窪川―久礼間はもちろん他町村へ物資の運搬をした。これに東又、窪川、松葉川の貨車数を加えると二〇〇台以上であつたと思われる。この貨車で改修された道路を久礼へ木炭、木材、米等の生産物を運び、帰りは「上げ荷」といって、久礼港に陸揚げされた物資を台地に運んだ。それから数年後の大正十年ごろから貨物

自動車がこの道を行くようになった。相前後して乗合自動車が窪川を起点として久礼―窪川間を行くようになった。

註「貨車」は馬にひかせた四輪の荷車のことである。

現在の国道五六号（総延長二九五・松山―高知間）は、藩政時代の仁井田街道や中村街道にほぼ沿って走っている。写真集「くはかわ今昔」の巻末の年表によると、明治二十六年（一八九三）に久礼―窪川間が県道になったとの記載がある。また、「高知県高岡郡史」にも大正十一年（一九二二）以前のこととして県道高知中村線（八里三六町起点高石村中島終点窪川村峰ノ上）の路線名がみえて

いる。更に続いて写真集「くはかわ今昔」には、昭和六年（一九三二）年に県道呼坂隧道（一五二・幅員五・五）が完成し、その祝賀会に知事の田中無事生が臨席したとの記述がある。

昭和二十八年（一九五三）二月には、県道松山―高知間（海岸線 現五六号）が二級国道に昇格し、その一〇年後の昭和三十七年（一九六二）五月には一級国道に昇格している。

このころ、高知県では昭和三十年（一九五五）に溝淵増地が知事に当選して、「道路は県政の顔」であるとしてその改良整備を強力に推進し

始め、更に昭和三十三年（一九五八）八月には県開発財団が設立されると、産業立地条件整備の重点の一つである道路の改良整備が一段と加速された。

窪川町内を走る国道五六号線は、総延長一七・九キロで現在の平均幅員は一〇メートルとなっている。

工事は昭和三十八年（一九六三）に仁井田地区で始まり、全町内の一次改良が終わったのは同四十四年（一九六九）となっている。しかし、町内の改良は終わっても、窪川町民にとって県中央部や幡多地方へマイカーで気楽に行くにはどうしても久礼坂と片坂の改良を待たなければならなかった。

久礼坂改良工事は、トンネル四か所と一〇橋梁で構成され、延長を六・五キロ（旧道は九・五キロ）に短縮し、打設したコンクリートの量は実に六万立方メートルに達する大工事であった。トンネルは窪川町寄りから久礼坂第四、同第三、同第二、同第一トンネルと続いている。

久礼坂第四トンネルは、延長二八〇メートル、高さ四・五メートルで昭和四十五年二月に完成し、同第三トンネルは延長一八四メートル、高さ六・二メートル、同第二トンネルは延長八二メートル、高さ四・五メートル、同第一トンネルは、延長七八メートル、幅員同様に、幅員はいずれも八メートル。第三、第二、第一の三つのトンネルの完成年月はともに同年の六月となっている。

一方、幡多郡へ抜ける旧片坂は、標高差が一五〇メートルあり久礼坂の半分ぐらいであるが、勾配が急で道はうねうねと山腹を縫って続く難所であった。

この片坂の工事は、昭和四十四年から始まり、片坂第一トンネル（八〇メートル昭和四十六年完成）、同第二トンネル（一三〇メートル昭和四十六年完成）、同第三トンネル（六二メートル昭和四十六年完成）、第一市野瀬橋（橋長九〇メートル昭和四十六年三月完成）、第二市野瀬橋（橋長一〇〇メートル昭和四十六年完成）が施工され、



新窪川トンネル

昭和四十六年十二月開通した。この新しい片坂のコースは、二つの橋の部分にヘアピンを描くアーチ橋で見た目にもたいへん美しい。

久礼坂は四十五年十二月に、片坂は四十六年十二月と次々に開通したが、窪川市街に入る呼坂トンネルは、幅員が五・五メートルしかなく、また、三八一号との分岐点でもあり、とかく交通渋滞が起るところであつたので早急に窪川バイパスを建設することになった。

この窪川バイパスの工事は、昭和五十年（一九七五）に着工され、新吉見川橋（二五・八メートル幅員一五・四メートル昭和五十一年三月完成）、窪川トンネル（二八〇メートル・一〇メートル同五十二年十月完成）が施工され、同五十三年三月に開通した。

この五六号線の高知方面の主な工事は、県下第一の橋となった新仁淀川橋（橋長六三三メートル・一一・五メートル昭和四十五年完成）、焼坂トンネル（九六六メートル幅員八メートル昭和四十六年完成）、新荒倉トンネル（五五三メートル・九メートル同四十九年三月完成）、新名古屋トンネル（三七八メートル・九・八メートル平成六年十一月完成）が施工されている。

最近では春野坂幅事業（四・四・新仁淀川橋手前―新荒倉トンネル間）が平成十三年三月、須崎道路（五・一・新庄川橋―吾井郷間）が同十四年三月、土佐市バイパス（二・四・連池淵岩―高岡町三差路間）が同十六年二月にそれぞれ開通し、これによって県都高知市への所要時間が一層短縮された。

また中村方面の主な工事は、井の岬トンネル（三二・五メートル昭和四十三年十月完成）、逢坂トンネル（二二・二メートル・九・八メートル平成四年十二月完成）が施工されている。

近年は横浜トンネル（六二・四メートル・一〇・五メートル佐賀バイパス区間）が平成十四年二月に施工され、佐賀バイパス（二・二・中角―横浜間）が同年三月に開通して幡多地方第一の都市―中村市への所要時間も短縮された。

現在、窪川町内の国道五六号線改良工事等は国土交通省中村河川国道事務所が担当し、中村国道出張所が維持管理を行っている。

国道三八一号 国道三八一号（総延長二・四・一・一km）の前身は県道国道三八一号であった。

それは大正九年（一九二〇）に、地方道江川崎窪川線として県道に認定されたことに始まる。認定されたとはいえ、県道移管とは名のみで、まだ窪川大井野橋も田野々大正橋も架設されていない時代であり、乾燥時に車が通ればもうもうと砂煙が立つ有様であった。

その後、徐々に道路改良が進められてきたが、昭和三十年（一九五五）一月、主要県道宇和島窪川線に昇格した。同四十年（一九六五）四月には、改良工事や維持管理を担当していた窪川土木出張所が窪川土木事務所（住所は古市町三二四）と改称し、平成八年（一九九六）九月には琴平町四七四―一に事務所を移転した。

更に三八一号は、昭和五十年（一九七五）四月に一般国道に昇格して以来、全線にわたり改良が進められた。

この国道は、起点が須崎市、終点が愛媛県の宇和島市であり、須崎市から実際の分岐点である窪川町東町までの間は、国道五六号との併用区間となっており、窪川町内での延長は約一・一km、平均幅員は約八mとなっている。

主な工事は、昭和四十三年（一九六八）三月、口神ノ川橋（三三）完成、四万十川に架かる窪川橋（旧大井野橋一一）は同五十四年（一九七九）十月完成、川口新橋（三三）は同年の十一月に完成して、窪川町内区域は昭和五十九年（一九八四）六月に全線完成した。

しかしながら、道路の整備は進んでも、それに比例して交通事故が増えてきた。昭和四十六年（一九七二）二月には、窪川町内初の信号機が東町交差点に、また翌々年の十二月には五差路にも二つ目の信号機が設

置された。

隣接の大正町境にある広瀬トンネル（二・三七km幅員約九・三）は、昭和五十二年（一九七七）二月に完成している。

その他、窪川町周辺では、大正町、十和村がすべて改良され、愛媛県側も同様に終わって、後は西土佐村の半家工区（半家バイパス）三・九kmのみが未改良となっているが、完成は平成十七年（二〇〇五）ごろとなる見込みである。

本国道の窪川町内の改良工事等及び維持管理は、現在窪川土木事務所が一括してその業務を行っている。

県道 県道は、県民の日常生活に密着した道路として広く利用されており、窪川土木事務所の道路台帳によると、窪川にかかわる県道路線は次のとおりである。

路線名	実延長	橋梁	トンネル	認定年月日
窪川船戸線	一七三・七〇(m)	一五	一	昭和三四・四・二〇
窪川中土佐線	一八四・〇	二	一	同四六・四・六
興津窪川線	一八七・一七	一五	一	同五・一・四
松原窪川線	二二九・六三	三四	一	同二四・二・一
作屋影野停車場線	五六・六〇	一四	一	同三四・四・二〇
七里仁井田線	三六・八一	二	一	同五・一・四
上ノ加江窪川線	九四・二三	八	一	大正十一・八・一
志和仁井田線	一五〇・八八	一八	一	昭和三・二・一六
小味野々川口線	八七・七五	一二	一	同三四・四・二〇
秋九佐賀線	四九・四一	三	一	同三四・四・二〇

窪川町内の県道路線図

